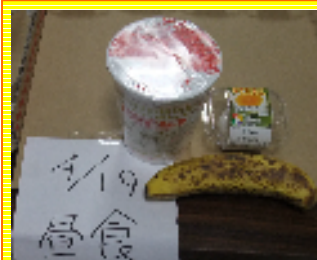


関係各位

有限会社エコ・ライス新潟



透析患者が食べるなんて…。

岩手県腎臓病の会と避難透析患者への理解推進 長引く避難生活支援に制限食の必要性を代弁 避難食で体重増加,カリウム・リン過剰摂取で体調悪化の懸念

○ 同じ透析患者だから出来る支援は代弁 ○



釜石市の避難所担当職員に要望書を渡す藤原副会長。

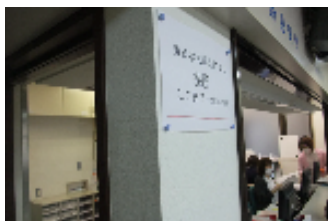
岩手県内の透析患者が避難生活をする支援で、病院・避難所を4日間回りました。避難生活が長引く中で制限食が食べられないことで体調悪化による死亡例も報告されるようになり、透析患者の食事の改善が急務です。

(社)全国腎臓病協議会、宮本高宏会長、岩手県腎臓病の会津島豊明会長の連名で「人工透析患者に対する配慮について(お願い)」を作成し、避難所の運営者・自治会長に制限食の必要性を説明して回りました。その結果、各避難所で運営者、自治会長から避難所で制限食を食べることの同意を得て透析患者に支援物資を配布しました。

今後は自己管理の中で食事の一部を制限食に切り替えることで体調管理の役に立てばと思います。

避難所への説明には、岩腎会藤原副会長、事務局小林良子さんが同行。避難所による待遇、食事の格差、自治会の違い、そして、透析患者が健康者と同じ食事を一ヵ月半以上も食べ続けている現実にショックを受けました。避難所の集団生活の中で「制限食をください」と言うことの出来ない雰囲気の中で、同じ透析患者だからこそ要望を代弁することが必要なのだと痛感しました。

透析患者は通常の医療を受けられるようになりました。しかし、現在、避難所で生活している患者は津波で家や車を失った人たちです。人数は少なくなりましたが、仮設住宅に入居し自炊できるまでには時間がかかります。今後の制限食の支援を続けて参ります。



宮古市の後藤医院。1階は1m以上浸水したが、翌日には透析を再開。後藤医院長は「発電機、水、重油は備蓄していた。この地域は水害地域だから当然」脱帽です。



さいたま市から派遣された保健師に制限食の説明。「透析患者の食事は気になっていた。ありがたい」と専門家も塩分・カリウムが高い食事が気がかり。皆さん協力的でした。



透析治療から避難所に戻った患者。みぞれが降る寒い日で疲れた体を休めるのは体育館。食事だけでなくストレスで体調悪化も。眠れず便秘になる患者ばかり。



朝の食事。自衛隊の支援の無い避難所は食事の質が悪く温かい食べ物も少ない。パンや水分は透析患者にとって不向きな食事。でも食べるしかない・・・。

【 問合せ先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨナガユキ) 】

〒954-0181 新潟県長岡市脇川新田町字前島 970-100

TEL 0258-66-0070 mobile 090-6458-5535

e-mail eco-net@nekonet.ne.jp